

■ 温度感

暖色と寒色では、室温が同じでも体感温度は数度の差になるといわれている。

■ 時間感覚

暖色系→時間が長く感じられる(2倍)

寒色系→時間が短く感じる(1/2倍)

■ 興奮色・沈静色

暖色系の高彩度色は興奮しやすく、寒色系で低彩度色は気分が落ち着く。

■ 軽い色・重い色(安定感、重量感)

色の重量感は明度によって左右される。

低明度＝重厚(重い)、高明度＝軽快(軽い)

■ 膨張色・収縮色(大小感)

主に明度に関係する。(膨張色の代表は白、収縮色の代表は黒)

■ 進出色・後退色(距離感)

暖色系で高明度・高彩度の色は進出色であり、寒色系で低明度の色は後退色である。
(進出色の代表は黄色、後退色の代表は青)

膨張・収縮と進出・後退は近似しており、前に進出して見える色は大きく(膨張)見える。

■ 派手な色・地味な色

高彩度(純色に近い色)は派手な色、低彩度(灰みの色)は地味な色。

■ 美味しい色

食の色は、暖色系(主に赤、オレンジ、黄)に集中している。→美味しそう

寒色(青系)と無彩色の灰、黒はほとんどない。→不味そう

■ 味と色

・甘い色→ピンク、クリーム系

・すっぱい色→黄緑、黄

・辛い色→濃い黄、濃い赤

§ イメージ配色(ファッション)

・スポーティー(アクティブ)→高彩度、コントラスト配色 (→ビビットカラーが主流)

・フォーマル→寒色、無彩色

・エレガンス→高明度、明清色、寒色 (→グレイッシュパステル)

・モダン→無彩色、寒色、コントラストシャープ (→モノトーン、白・黒)

・カジュアル→アウトドアの太陽と芝をイメージする色

・クラシック→明清色や中間色、渋み、年季を感じさせる色 (→ディープ、ダーク、モノトーン)

・ロマンティック→高明度、明清色、暖色 (→パステルカラー)

・ナチュラル(カントリー)→中間色、アースカラー、自然に見られる土や草

§ 見やすさの配色

・乳幼児の見やすさ→白黒などの明暗のハッキリとした色、赤、黄、青などの高彩度のハッキリとした色

・高齢者のみやすさ→水晶体が黄褐色に変化するため、青系は見えにくくなる。